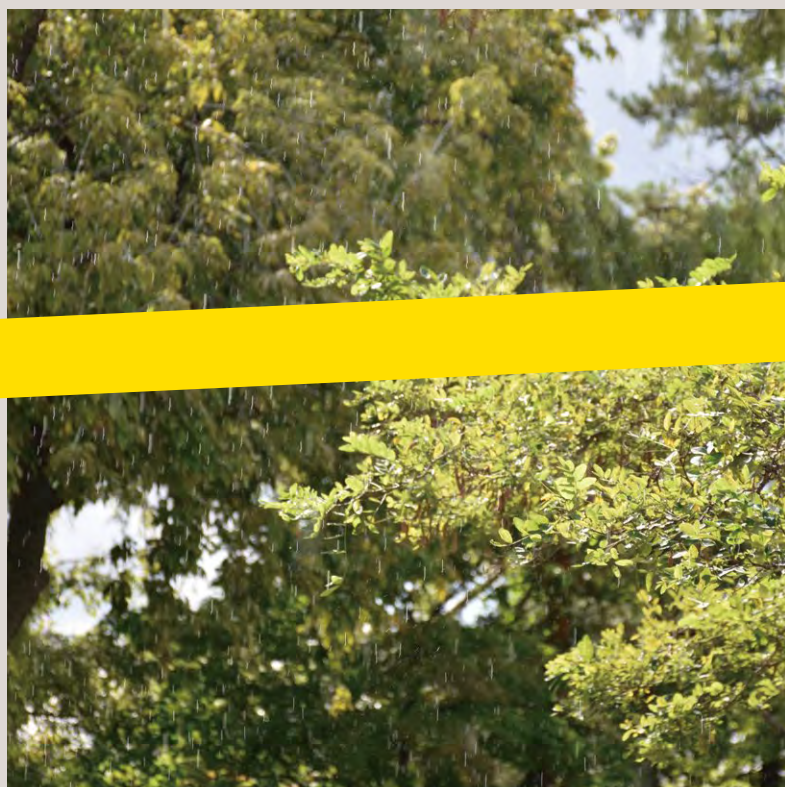




私たちは、写真を通して広く北海道のイメージを高め、より深く北海道を知っていただこうと、北海道をベースに活動する写真家有志が集まり2007年に発足させたNPO法人です。  
会員の作品による展示・紹介のほか、写真教育や、歴史写真等の写真資産活用も含め、広く写真文化発展への貢献を目指しています。

## THE NORTH FINDER

NPO法人 北海道を発信する写真家ネットワーク

[www.northfinder.jp](http://www.northfinder.jp)

 thenorthfinder

THE NORTH FINDER



2017  
Report

Sapporo  
Photo



# 地域と写真

2018年は“北海道”と命名されて150年、  
開拓の拠点・道都と位置づけられた札幌は、  
まだ原野が広がり、街の形成が始まる当初から、  
記録として多くの写真が残されてきました。

私たちNPO法人北海道を発信する写真家ネットワーク（THE NORTH FINDER）では、この世界的に見ても稀有な都市・地域であるという歴史事実を重んじ、札幌を中心に北海道全体の写真文化発展に寄与すべく、2015年より「SapporoPhoto」と称して、企画展・講演・写真教室・ポートフォリオレビュー等を開催しています。

自然をはじめ多くの魅力的な被写体に恵まれた北海道。より一層、豊かな“写真文化”が育まれ後世へ紡がれてゆくことが私たちの願いです。

また、2017年は札幌国際芸術祭の開催年でもあり、歴史写真と最新技術である360°VR写真を用いた観客参加型の連携企画も行いました。これら事業の一部には「札幌市写真文化振興事業」として補助をいただいております、その成果を少しでも広く・多くの方に届けることを目的に、この冊子では各イベントの様子をご紹介します。

最後に、当事業に関しご協力いただきましたすべての皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

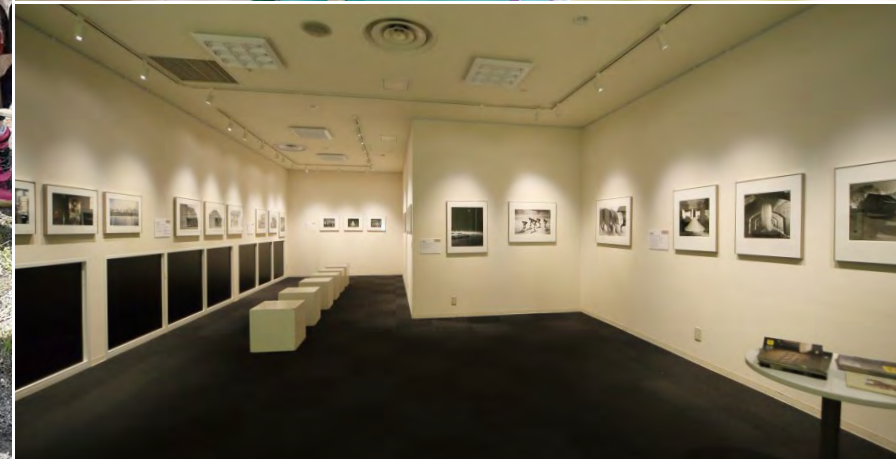
理事長 中村 健太

写真・文  
浅野 久男 ウリュウウキ 中村 健太

写真  
高橋 健介 谷口 能隆 長谷川 規夫  
干場 忠夫 山本 顕史 渡辺 可緒理  
(全てノースファインダー会員)

レポートブックデザイン  
内山 智之

Sapporo  
Photo







| 講演 | 写真評論家

飯沢耕太郎氏

とともに 2017.10.1  
古民家ギャラリー鴨々堂  
札幌市中央区南8条西2丁目

写真評論家・飯沢耕太郎氏をゲストに、鴨々堂会場に展示されている浦島甲一氏の作品も取り上げながら、プロフェッショナル（職業家）とは異なった立場・思想から生まれる“アマチュアリズム”、そして地域の様々な特徴から生ずる“ローカリティ”の視点から北海道における写真について語っていただいた。





冒頭、当NPO理事長中村より、プロとアマは優劣ではなく、商業的視点に左右されないアマゆえの表現活動があり、会場展示はその「アマチュアリズム」に着目したと説明。それを受け飯沢さんが、戦前はアマのエネルギーが写真界を牽引していた、展示の浦島甲一さんもその例であり、「地方作家」とも言われる、時をかけ地域に根差した写真を残すアマチュア写真家とその歴史について語り始めた。

後半は、書籍『北海道写真史』を例に、北海道写真の歴史に話が及ぶ。写真が長崎・横浜を起点に欧米より伝わった本州各地に対し、函館

経由でロシアからという特徴があり、中央政府への報告に写真を用いた開拓使の存在が写真家に活躍の場を与え数多くの写真が残された。

第二次大戦前の写真史を振り返る際に、北海道の古い写真が脚光を浴びた。コマーシャルがベースだった九州や関東群に対し、現実記録に徹した写真からなる北海道群は「ドキュメンタリーの原点」として高く評価されたからだ。

そこには単純な記録写真としてだけでなく、自らの住む土地に対する思いを表現する意思が見られる。これらの存在を、みなさんにも写真家活動の原点として着目して欲しいと締めくくった。



### 飯沢 耕太郎 いいざわ・こうたろう

写真評論家。きのこ文学研究家。1954年、宮城県生まれ。1977年、日本大学芸術学部写真学科卒業。1984年、筑波大学大学院芸術学研究科博士課程修了。主な著書に『写真美術館へようこそ』（講談社現代新書 1996）、『デジグラフィ』（中央公論新社 2004）、『きのこ文学大全』（平凡社新書 2008）、『写真的思想』（河出ブックス 2009）、『深読み！ 日本写真の超名作100』（バイインターナショナル 2012）、『きのこ文学ワンダーランド』（DU BOOKS 2013）などがある。約5000冊の写真集が並ぶ『写真集食堂 めぐたま』も営む。

### | ポートフォリオレビュー |

## 飯沢耕太郎氏による ポートフォリオレビュー

2017.10.1

古民家ギャラリー鴨々堂  
札幌市中央区南8条西2丁目



東京恵比寿の「写真集食堂めぐたま」にて定期的に開催しているポートフォリオレビューの出張版として開催。撮影対象には恵まれているものの、多くの観客の目にふれる作品発表の場や客観的で適切な指摘・指導等を受けられる機会が少ない、地方在住で創作活動を行う作家のサポートを目的に開催している。

多様な作風の作家が参加し、今後の活動の指針となるようなアドバイスを受けた。



## 写真展

協力：浦島 久、東川町

# 記憶と記録の 北海道 そこに見つめる人がいた

### ▶ 鴨々堂会場

「十勝野」を撮り続けた浦島甲一

2017.9.28-10.2

古民家ギャラリー 鴨々堂

札幌市中央区南8条西2丁目

### ▶ 新さっぽろ会場

写真の町東川賞

特別作家賞受賞作品セレクション

2017.9.27-10.2

新さっぽろギャラリー

札幌市厚別区厚別中央2条1丁目 デュオ2 5階

この写真展では、昭和中期から平成にかけて、北海道内を拠点に生活・文化・風景など多岐にわたる題材をそれぞれの土地に根ざして撮影してきた作家とその作品を、2つの会場でご紹介した。

この地に題材を求め、確たる意思のもとに撮り続けてきた作家の作品は、北海道が重ねてきた時代や人々の姿、そして私たちの来し方行く末に思いを馳せる時間をもたせてくれた。

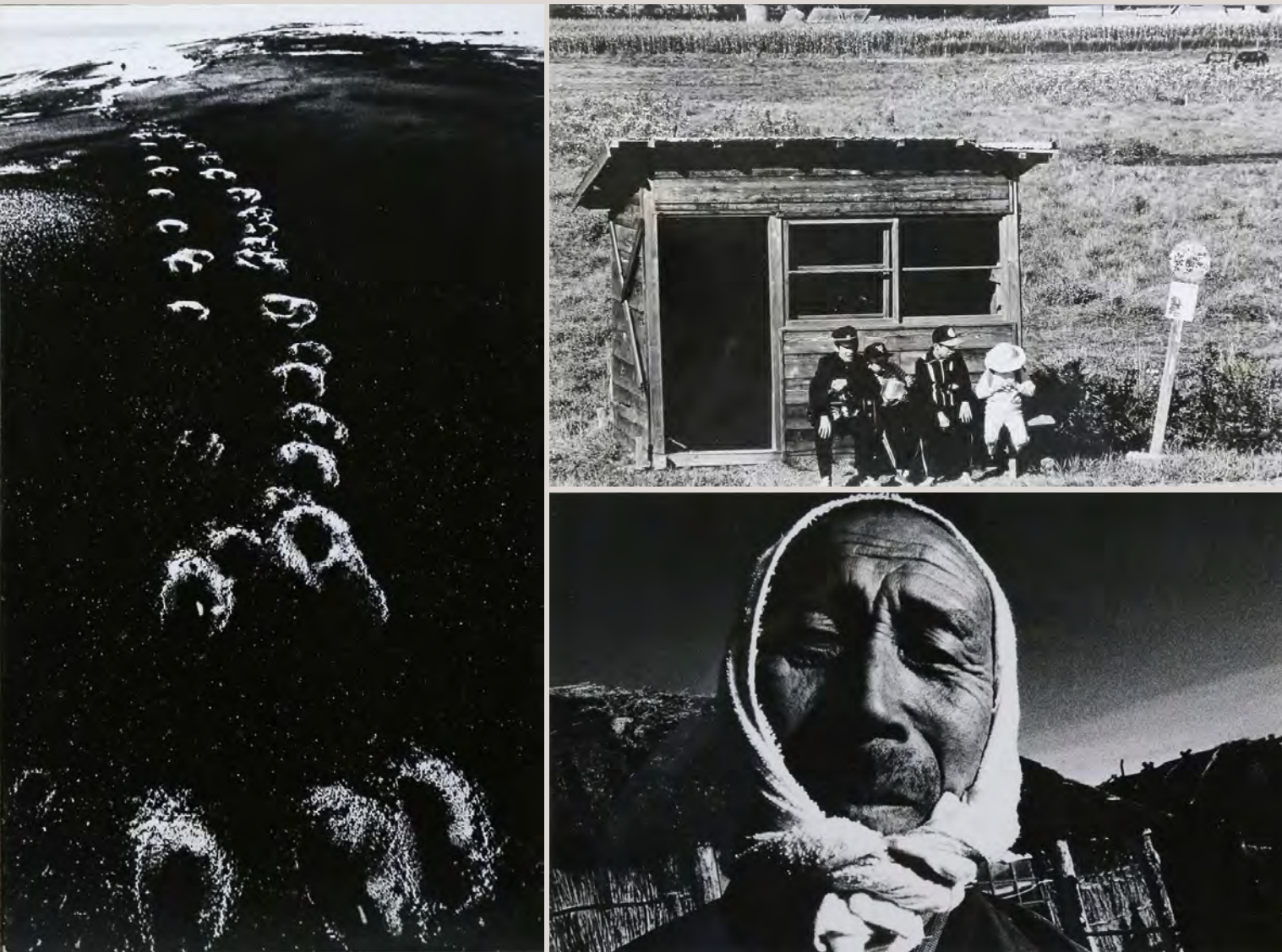


鴨々堂会場



新さっぽろ会場





厳しくも美しい冬の光景など十勝川河口のシリーズ

戦後引き揚げ後、豊頃町で電気店を営みながら、十勝平野の四季やそこに生きる人々の姿を丹念に記録し、地元帯広を中心にコンスタントに発表するなど十勝平野を一貫して撮り続け、自らの足元を耕すように写真活動を続けた浦島甲一（うらしま・こういち／1924～2001）。1980年代に撮り始めた豊頃町の牧草地の片隅、十勝川河川敷にある「はるにれの木」の四季折々の作品群が、当時のリゾートブームを背景にした「北海道イメージ」の跋扈とともに多くの観光ポスターやパンフレットなどに使用され、写

真集も出版された代表作として知られている。まだ世の中に「ネーチャー写真」という言葉がなかった時代。人々は身近な地域の記録を撮影していた。郷土の風景は、当時の豊かな自然を背景とした景観の記録としての役割を現代の私達への遺産として果たしている。そしてその写真を通じて、私達は昭和の十勝の記憶を感じているのである。昨今巷にあふれる「絶景」と名づけられた風景写真とは一線を画す作品群は、写真のあり方を問いかけるものであった。

新さっぽろ会場

写真の町東川賞  
特別作家賞受賞作品  
セレクション

展示作品・作家

佐藤雅英  
ボーイズ・ビー・アンビシャス！  
北海道大学旧恵迪寮

津山正顕  
松山民俗建築照相譜

飛驒野数右衛門  
昭和の東川

飛驒野数右衛門  
清水沢発電所

綿谷 修  
遠軽

山田博之  
残雪

小畑雄嗣  
二月

萩原義弘  
庶路炭鉱 白糖町ほか

東川賞は、わが国で初めて自治体が制定した写真作品賞であり、特別作家賞は北海道ゆかりの作家もしくは北海道をテーマとした作品の作家が対象。  
作品選定：ウリュウ ユウキ（ノースファインダー会員）



ワークショップ | 機材協力：株式会社ニコンイメージングジャパン

こども写真教室

# 親子で 写真を撮ろう

2017 2017.9.30  
中島公園周辺

次代を担う子供たちに、正しく写真やカメラの魅力に触れてもらうことを目的に続けてきた事業。最も身近な手本となる保護者にも同じく理解していただくため、親子参加として開催した。

最新のデジタル一眼レフカメラを貸し出し、ただ漠然とではなくイメージを形にする“表現”のための技術を楽しく学んでもらった。







保護者のスマートフォン等、ほぼ生まれた時からずっと写真は身近な存在であり、写真を撮られる・撮ることに慣れている現代の子どもたち。

大きなカメラにも物怖じすることなく興味津々、上手に使いこなしながら、気になるものを次々とカメラに収めていた。

また、保護者の皆さんにも、スマホでは上手に撮ることが難しい状況や表現をノースファイ

ンダー会員の指導の下体験してもらい、短い時間ではあったが、カメラのおもしろさやちょっとしたコツなどを学んでいた。

成長する我が子の姿を思い通りに記録することができるようになることは、子育ての楽しみが増えたり、家族のコミュニケーションを良好にする効果ももたらしてくれることだろう。

| 札幌国際芸術祭2017連携企画 |

## さっぽろ時空を越える視点

2017.8.4-2018.3.11 北一条さっぽろ歴史写真館



北6条西5丁目 北大前通り(1955年)札幌市公文書館蔵

同時期に開催された札幌国際芸術祭の連携企画として、360°撮影ができるカメラを使用し、歴史写真が撮られた同じ場所に立ち、撮影者と時を越えて視点を共有し、変わった部分・変わらない部分を見つけることで変化をより鮮明に感じ、自分が後世に今の街の姿を残すならどうするか？未来に思いを馳せることを目指した展示を行った。

THETA  
RICOH

360°撮影協力:株式会社リコー



[www.northfinder.jp/360/](http://www.northfinder.jp/360/)

### ▶ 北一条さっぽろ歴史写真館

ノースファインダーでは、札幌駅前通地下歩行空間と北一条地下駐車場をつなぐ「北一条地下通路」壁面部に開設されている「北一条さっぽろ歴史写真館」の展示企画構成を担当しています。

